

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H04749

研究課題名(和文) WHOとの連携に基づくチーム医療教育効果に対する2施設縦断研究とアジア展開

研究課題名(英文) Longitudinal study on the effect of interprofessional education delivered by two institutions on the basis of collaboration with WHO

研究代表者

渡辺 秀臣 (Watanabe, Hideomi)

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：40231724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：WHOは質の高い保健医療人材の育成に向けて教育ガイドラインを2013年に発刊した。この中でチーム医療教育(IPE)が推奨項目に掲げたが、その効果について科学的検証が乏しい事を指摘した。本研究はWHO協力センターとして教育効果の科学的検証を目指し、系統的IPEを実施している2大学間で、多職種連携に対する態度の変化を調査した。結果、異なった教育内容を実施している両校では有意な差を認めなかった。WHO連携の下、ラオス、タイ、フィリピンでのIPE開発に関わり、定量的な態度変化の効果が見出した。さらに医療安全におけるIPEの役割を多職種連携の観点から検討して、医療安全に必要な連携要素を抽出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会要請に応えた21世紀型医学保健学教育の一環としてWHOから推奨された多職種連携教育プログラムの共通した教育効果を示した。一方で世界の異なる文化・風土においても教育の開発に寄与し、その教育効果を示すことができたことは本教育がグローバルな質の高い保健人材の育成に対する要請に応えるものであると言える。本教育のアジア地域での普及・促進に貢献できたことは国際的に意義のあることである。また国内外の医療の提供で国際的な課題となっている患者安全に対して、多職種連携の重要性が大きく取り上げられているが、その有効な実践には教育的介入は必須であり、多職種連携教育の構築への具体的内容が示された意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：WHO launched a transformative educational guidelines for health professionals in 2013. Interprofessional education (IPE) is described as one of the 11 recommendations, although the effect is conditional. To respond to the background, as a WHO Collaborating Centre (WHOCC), the present study focused on the comparison of the IPE programs between two universities implementing comprehensive IPE. While the programs were distinct, the effects on the attitudinal change of the student were similar. On the other hand, several universities in Lao PDR, Thailand and Philippines succeeded delivery of their own IPE programs in collaboration with the WHOCC and showed significant outcomes. Furthermore, several educational elements required for collaboration in patient safety were elucidated.

研究分野：医学保健学教育

キーワード：多職種連携教育 大学間比較 態度 WHO 世界保健機関 患者安全

1. 研究開始当初の背景

1) 国際社会におけるチーム医療教育の現状

2010年にすべての保健職業人に対する新世紀の教育を検討する委員会 *Commission on Education of Health Professionals for the 21st Century* が国際的に組織され、21世紀の医学保健学教育の指針が示され、チームワーク力の乏しさが強調されてチーム医療教育の重要性が示された [Frenk J, et al, Lancet, 376, 1923-1958, 2010]。

一方、国際連合により2000年に *国連ミレニアム宣言* が採択され、2001年にミレニアム開発目標 *Millennium Developmental Goals (MDGs)* がまとめられた。この目標の中で、保健医療に直接関係するものは、MDG 4: 乳幼児死亡率の削減、MDG 5: 妊産婦の健康の改善、そしてMDG 6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止である [WHO. Health and the Millennium Development Goals, 2005]。世界保健機関 (WHO) はこれらの目標を達成するためには保健人材不足が大きな障壁となっている事を明らかにした [WHO. Working together for health, 2006]。保健人材の数を増やすとともに良質な人材の育成を喫緊の課題とし、チーム医療教育に高い関心を示してWHOが2013年11月に発行した保健人材養成ガイドライン、*WHO global guidelines on Transforming and Scaling up Health Professional Education and Training* にも11推奨項目の一つにチーム医療教育が掲げられた。しかしながら、ガイドライン作成中に、科学的検証に基づくチーム医療教育の成果、つまり研究に基づくエビデンスが乏しい事が指摘された。

2) チーム医療教育の科学的解析による教育効果実証の実態

国際的にチーム医療が医療へのアクセス (治療の受け入れ、満足度)、治療効果 (慢性疾患、心疾患、自殺発生の低下) そして医療管理と安全 (入院日数、死亡率、医療事故、医療費の低下) に対して効果あることは実証された [WHO. Framework for Action on Interprofessional Education & Collaborative Practice, 2010]。しかし、チーム医療教育、特に資格取得前の教育が医療にもたらす直接的な効果を示すエビデンスの報告は見当たらない [Reeves S et al, Cochrane Database Syst Rev, 28, 2013]。これは研究デザインの作成がきわめて困難である事による。このため、現在のチーム医療教育の効果の検証は、主にチーム医療に対する学生の態度変化の解析により医療現場でチーム医療が実践できる資質がいかにかつ養われたかを検証し、医療そのものに対する効果を間接的に研究することに主軸が置かれている。しかしながら、多様性に富む教育内容を持つチーム医療教育を評価するグローバルな評価指標は定まっていない。RIPLS [Parsell, G et al, Med Educ, 33, 95-100 1999] や Professional Identity Scale [Brown R et al, J. Occupational Psychology, 59, 273-286, 1986] 等が用いられているが、医療者の観点からのチーム医療の価値に重点が置かれ、縦断研究でも教育効果は確認できていない。一方、私たちはHeinemann GD等が開発し、Curran VR等が改善した modified Attitudes toward Health Care team scale (mATHCTS) [Curran VR et al, Med Educ, 41, 892-896, 2007] が医療を受ける側からのチーム医療の価値にも及んだ評価をしている事を横断研究で明らかにした [Hayashi T et al, J Interprof Care, 26, 100-107, 2012; Makino T et al, J Interprof. Care, 27, 261-268, 2013]。

3) 我が国におけるチーム医療教育ネットワークとWHOとの連携

群馬大学は、文部科学省の大学教育推進プロジェクト (いわゆる GP) 事業に認定されたチーム医療教育を行う大学9校 (現在10校) と共に、日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク (Japan Interprofessional Working and Education Network, JIPWEN)* を設立した。JIPWEN 大学では教育目的、対象学生の職種、実習形態等、大学により多様なチーム医療教育を行っている [Watanabe & Koizumi eds, Advanced initiatives in Interprofessional Education in Japan, Springer, 2009]。JIPWEN は2008年からWHOと国際連携活動を開始し、ネットワークのコーディネーター大学として群馬大学は2013年7月にWHOからチーム医療教育の共同研究教育センター *WHO Collaborating Centre for Research and Training on Inter-professional Education* ** の認定を受け、ネットワークに基づくチーム医療教育の改善に向けた研究体制を確立し、国際社会の教育者・行政者に向けたトレーニングコースを開始した。25年度はフィリピン、インドネシアから4名、26年度はインドネシア、モンゴル、トルコ、韓国から6名の参加、修了者を輩出した。

*JIPWEN HP: <http://jipwen.dept.showa.gunma-u.ac.jp/jp/>

**WHO Collaborating Centre HP: http://apps.who.int/whocc/Detail.aspx?cc_ref=JPN-89&cc_code=jpn&

4) アジア地域におけるチーム医療教育

アジアの保健行政担当のWHO西太平洋地域事務局 (Western Pacific Regional Office, WPRO) は、2011年の総会で *Human Resources for Health Action Framework for the Western Pacific Region (2011-2015)* を採択し、アジア地域における5年間の保健人材養成の枠組みが決定され、チーム医療教育の重要性が明記された。アジア諸国ではチーム医療教育に関心はあるものの実践は不十分である [Lee et al, J Interprof Care, 26, 479-83, 2012]。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つとした。

- 1) JIPWEN 大学に所属して特徴のある異なったチーム医療教育を実施している2校、群馬大学と札幌医科大学のチーム医療教育の成果を横断的、および縦断的に解析して、各校の教育効果の特性とチーム医療そのものの教育的効果の共通性を明らかにすること。
- 2) アジア地域から参加した本学のチーム医療教育トレーニングコース修了者が実施する教育の

効果を解析すること。

3)社会的要請の高い医療安全分野におけるチーム医療教育導入に対して検証すること。この目的は当初計画をしていなかったが、本研究課題を推進している間に、世界的な重要課題として国内および国際的に浮かび上がり、WHO と連携して本邦の厚生労働大臣が患者安全サミットを開催する等、日本の国策として保健医療行政のなかに位置付けられたものである。WHO が患者安全に対する対策として大きく注目したのが多職種連携であり、またその教育であったために、WHO 等の国際機関レベル、国行政レベルからの要請に基づき、研究の目的に加えたものである。

3. 研究の方法

1) 国内チーム医療教育の比較による横断的・縦断的解析

参加2校は別な特徴を有し、入学時の学生態度に既に差がある。一時期の横断研究ではなく、年間の pre-post 研究データを横断的に解析して、各校の特性と共通性を明らかにする。また、リクルートした学生を4年間（保健系では全過程）追跡して態度変化を縦断的解析する。

2) アジア地域からのチーム医療教育トレーニングコース修了者が実施する教育の効果解析

群馬大学トレーニングコース修了者の自国でのチーム医療教育の開設を支援し、実施後国内と同じ横断的かつ縦断的解析を行い、アジアにおけるチーム医療教育の共通性、特異性を明らかにする。

3) チーム医療教育を学修したグループと学習しないグループ間で医療安全チーム要素に対する態度変化の解析

群馬大学の医学科および保健学科の学生対象に、チーム医療教育を学修したグループと学習しないグループの間で、チーム医療教育の前後で T-TAQ 質問項目を用いて、医療安全に必要なとされるチームへの態度の変化を解析し、医療安全文化醸成のための教育システムの構築に資する。

4) 2 施設の学生に対する調査方法

対象：札幌医科大学と群馬大学の医学科、保健学科学生

対象時期：前期、後期の開始時

調査方法：無記名式質問紙調査

質問項目：

- ①14 項目 mATHCTS [Curran VR et al, *Med Educ*, 41, 892-896, 2007] の日本語 version [牧野孝俊、他. チームワーク実習によるチーム医療及びその教育に対する態度の変化：保健学科と医学科学生の比較検討. 保健医療福祉連携. 2(1), 2-11, 2010. (お詫びと訂正：保健医療福祉連携. 5(1), 50, 2012.)] を使用
- ②30 項目 T-TAQ [Baker, et al. *Qqal. Saf. Health Care*, 19, e49, 2010.] の習性日本語版 [Ochiai K & Kaito K. (2012) *The Guide of Team STEPPS for Japanese*. Tokyo. Medical View Co. (In Japanese)] を使用

分析方法：因子分析、回帰因子得点解析

4. 研究成果

(1) 国内チーム医療教育の比較による横断的・縦断的解析

当初、単年度ごとの集計を横断的に解析する予定であったが、札幌医科大学の保健学科の学生のチーム医療教育プログラム参加人数が極めて少なく、群馬大学の保健学科の学生を含めた比較解析では、対象学生の学部構成に著しい差が生じた。そこで、対象者の均一性を保つために保健学科の学生を除外し、90%以上の有効回答率を示した2校の医学科学生を対象とすることにした。また、単年度では100名以下の対象学生の比較となることから、2年度の学生をまとめて評価することとした。その結果、2015年入学生および2016年入学生が対象となり、チーム医療教育前の入学直後では群馬大学237名、札幌医科大学204名、チーム医療終了後では群馬大学196名、札幌医科大学170名が対象となった。チーム医療教育に関しては当該年度の群馬大学医学科の学生は系統だったチーム医療教育を履修していなかった。一方、札幌医科大学の医学生は地域基盤のチーム医療を履修しており、その内容はすでに詳しく報告されてある [Sohma H, et al. *Encouraging Appreciation of the Community Health Care by Consistent Medical Undergraduate Education*. In: *Advanced Initiatives in Interprofessional Education in Japan*, H. Wanatanbe, M. Koizumi. eds, Springer Tokyo, pp. 1-12, 2009]。

mATHCTS を用いてアンケートデータの因子分析による因子構造の結果は、医学科学生のみならず保健学科学生を含めたこれまでの報告 [Hayashi T, et al. *J Interprof. Care*, 2012; 発表論文 1; 発表論文 4] に完全に一致した。Regression factor scores [DiStefano C, et al. *Prac. Assess. Res. Eval.*, 2009] を用いて各因子ごとに検定を行った。因子1（医療の質）に関しては両校とも低下した。また両校に差はなかった。このことはこれまでの報告と同様 [Hayashi T, et al. *J Interprof. Care*, 2012; Kururi N, *J Interprof. Care*, 2014] で、医学科、保健学科学生に共通したものと思われた。一方、因子2（患者中心の医療）に関しては群馬大学学生が大きく改善した。札幌医科大学の学生も同様の傾向が見られ、これは保健学科学生を対象としたこれまでの結果と大きく異なる変化で、医学生においては、チーム医療教育の有無にかかわらず、入学後に患者さんにとってのチーム医療の大切さを認識するのではないかと考えられた。因子3（チーム医療の効率）に関しては、群馬大学のみ大きく低下した。入学時には群馬大学の学生が高いスコアを示していたが、札幌医

科大学のチーム医療教育終了時の時点では両大学に差は見られず、入学する学生で群馬大学の学生は、効率に高い期待を持っていることが現れたのではないかと考える。

結論として、入学後約半年が過ぎた時点ではチーム医療に対する態度に両校の差は見られていない。チーム医療教育が学生の態度変化に影響を与えないのか、あるいは群馬大学では同じキャンパスで学生生活を過ごす保健学科がチーム医療教育を履修していることから、保健学科の学生からの影響、つまり hidden curriculum が一定の効果をもたらしているのかが考えられる。これまでの成果は現在論文 [Nozaki S, et al. Attitudes of 1st-year medical students toward interprofessional healthcare team: A comparison between two universities. In preparation] として作成中である。今回の研究で明らかにできなかった点は、本研究の目的の通り今後縦型の研究に発展させて教育効果の検証をよりはっきりとさせてゆく予定である。

(2) アジア地域におけるチーム医療教育トレーニングコース修了者のチーム医療教育の実施状況の検証

群馬大学多職種連携教育研究研修センター（WHO 協力センター：JPN-89）が毎年夏に約1週間程度の日程で開催するチーム医療教育トレーニングコース（IPE TC）の修了者はアジア地域を中心に世界各国にわたる。WHO の支援と協働でラオス人民民主共和国（ラオス）の健康科学大学に対して、4年の戦略的取り組みを行った [発表論文 2]。その一環として教育センターの中心的な教員に IPE TC に参加させ、プログラムの作成、運営を担当する中心組織の設立、そして具体的なプログラムの作成を指導した。その後、ラオスの大学ですでに JICA の支援で確立していた多職種で赴く地域基盤型実習に IPE TC で習得した多職種連携教育の要素を統合して実施した。その後、医学部長も IPE TC に参加させて、共同で教育効果の検証を行った。パイロットではあるが randomized study の結果からは、興味深いことに有意に地域医療においても多職種連携の重要性は、IPE の要素を入れたほうが低下しないことが明らかになった [発表論文 8]。本取り組みは WHO、特に WHO 西太平洋地域事務局の温かい支援によるものであり、このためにラオス国内で保健行政、教育行政の理解が得られたことは成功の大きな要因と考える。

フィリピン共和国（フィリピン）から最初の IPE TC に参加した作業療法士教員は帰国後地域基盤型のチーム医療教育を実施した。その内容を簡単な態度変化の統計解析を行い、有益な結果を得て、後の IPE TC で発表してその時の参加者の大きな刺激となった。現在もフィリピンで地道に解析し [Sy M P. J. *Interprof. Care*, 2017]、この促進活動自国のみならず近隣国に広げネットワーク活動 [学会発表 1] を行なっている。

その他では、現在国レベルでチーム医療教育を促進しているタイ王国（タイ）やインドネシア共和国（インドネシア）からも毎年多数 IPE TC に参加して、独自の多職種連携教育プログラムを計画し、実施しており、こうした成果は残念ながら英語での論文発表に至っていないが、招聘された講演会で多数の施設から聞くことができた [タイ：学会発表 8,13; インドネシア：学会発表 9,10]。今後これらの教育成果については、科学的検証に基づく論文報告に向けた研究として共同作業を予定している。

(3) チーム医療教育の医療安全文化醸成に果たす役割についての解析

チーム医療が患者安全にとって有益であることは多くの人が理解するところである。しかしながら、単なる情報共有のみでは医療事故を防ぎ、医療の質を高めることはできない、重要なことはお互いを理解し、お互いをカバーするマインドの形成こそが有効な多職種連携が実践される安全文化を醸成するものである [発表論文 17, 19]。2017年度の群馬大学の医学科および保健学科のチーム医療教育を学修した学生対象に、チーム医療教育の前後で mATHCTS および mT-TAQ 質問項目を用いて、医療安全に必要とされるチームへの態度の変化を解析した。mATHCTS の14項目中11項目は有意に改善し、regression factor scores を用いた因子ごとの比較では、因子1（医療の質）と因子2（患者中心の医療）が有意に改善し、対象学生の態度変化はこれまでの報告によく一致し、チーム医療に対する重要性をよく理解していることがわかる。一方、mT-TAQ を用いたアンケートでは、30項目のうちたったの7項目のみ有意差を持って改善しなかった。今回の結果からは、チーム医療教育は患者安全に資する連携マインドの育成に効果は持つものの十分ではなく、特に、“コミュニケーション”と“リーダーシップ”に関する医療安全の内容を取り入れる必要が明らかとなった [発表論文 1]。2018年度は、これまでの教育内容に医療安全の要素を取り入れたチーム医療教育を実施した。現在解析中である。科学的検証をしっかりと行い、教育内容がどんどん増大する医学、保健学教育の中で、患者安全をしっかりと理解させるコンパクトでかつ有効性の高いチーム医療教育の充実に努めるものである。

(4) アジア地域における日本のチーム医療教育の普及について

アジア地域に日本のチーム医療教育を普及することは、同じアジアに住む民族間の連携を強化し、共に医療・保健教育の発展を目指す事に繋がる事が期待できる。本研究の期間で WHO が主催する閣僚レベルの教育改革会議には、WHO 事務局 [In-house consultation on 2016-1017 Agenda for Strengthening the Health Workforce policy and Education in the Western Pacific Region, Manila, Philippines, 2015/12/14]、ベトナム社会主義共和国（ベトナム）[High-level meeting on Medical Education Reform towards Profession-oriented Medical Education in Viet Nam, Hanoi, Viet Nam, 2016/1/18-19; Meeting on Health Professional Education Reforms in Cambodia, China, the Lao People's

Democratic Republic and Viet Nam. Hanoi, Viet Nam, 2017/2/27-28]、カンボジア王国（カンボジア）[Meeting on Health Professional Education Reforms in Transition Economy Countries. Phnom Penh, Cambodia, 2018/4/24-25]に招聘され、アジア地域の医学・保健学教育の教育改革に対して多職種連携教育の観点から意見を述べてきた。加えて、各国で開催されるワークショップに参加して、多職種連携教育のプログラム作成に対する助言を行ってきた [学会発表 1, 2, 5, 8, 9, 10, 11]。こうした取組が持続的にかつ発展的に推移しているところに共通していることは、単独教育施設、大学の取組に終わらせないで、ネットワークを構築していることである。本学の IPE TC やワークショップから独自のプログラムを作成し、実施していることに感謝するとともに、本学、そして本邦の JIPWEN 大学も真摯に学ぶ必要があることを実感している。

(5) まとめ

本研究では、系統的チーム医療教育を行っている2校の比較を目的としたが、対象としてできたのは医学科学生で、群馬大学ではチーム医療教育を履修していないので、結果的にはチーム医療を履修したい学生と系統的には履修していない学生の比較となった。入学後約半年が過ぎた時点ではチーム医療に対する態度に両校の差は見られなかった。これらの結果は、保健学科を対象とした2校間比較でチーム医療教育の態度変化に有意に差の見られた報告 [発表論文 4]と異なる。チーム医療教育が学生の態度変化に影響を与えないのか、あるいは群馬大学では同じキャンパスで学生生活を過ごす保健学科がチーム医療教育を履修していることから、保健学科の学生からの影響、つまり hidden curriculum が一定の効果をもたらしているのかが考えられた。一方、医療安全に対する観点からの解析からは、チーム医療教育は患者安全に資する連携マインドの育成に効果は持つものの十分ではなく、特に、“コミュニケーション”と“リーダーシップ”に関する医療安全の内容を取り入れる必要が明らかとなった [発表論文 1]。今後、これらの要素を取り入れた教育プログラムを実施し、患者安全をしっかりと理解させるコンパクトでかつ有効性の高いチーム医療教育を開発する予定である。

今回の研究は、WHO の国際的保健戦略に沿って、WHO 協力センターとして支援されて実施されたものである。群馬大学のチーム医療教育の成果を中心としたい教育の検証、エビデンスを基にしたトレーニングコース、ワークショップを通じたチーム医療教育のアジア地域への促進活動は、大学レベルから国レベル、西太平洋地域レベルに拡大してきた。これらのネットワークを通じて、各国、各地域で実施されるチーム医療教育の成果を比較、科学的検証を行い、独自性、共通性を明らかにして、それぞれのチーム医療教育の充実を図る活動に拡げてゆく予定である。

(6) 謝辞

これまでに記した研究成果は文部科学省 科学研究費のご支援によるものですが、大学院保健学研究科の皆様、医学系研究科の医学教育センターの皆様のご支援に感謝するものです。また、本学 WHO 協力センターの委員として WHO よりご着任され、ご支援を賜りました蒲章則教授に深謝いたします。本学 WHO 協力センターを WHO から支えてくださる、WHO 西太平洋地域事務局の Indrajit Hazarika 博士、WHO 本部で世界の医療安全を取りまとめていらっしゃる、患者安全・リスク管理担当部長の Neelam Dhingra 博士のご協力に篤く感謝の意を表します。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Makino T, Lee B, Matsui H, Tokita Y, Shinozaki H, Kanaizumi S, Abe Y, Saitoh T, Tozato F, Igarashi A, Sato M, Ohtake S, Tabuchi N, Inagaki M, Kama A and Watanabe H	4. 巻 32
2. 論文標題 Health science students' attitudes toward health care teams: A comparison between two universities	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Interprofessional Care	6. 最初と最後の頁 196-202,
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13561820.2017.1372396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Watanabe H, Makino T, Tokita Y, Kishi M, Lee B, Matsui H, Shinozaki H, and Kama A	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Changes in attitudes of undergraduate students learning interprofessional education in the absence of patient safety modules: Evaluation with a modified T-TAQ instrument	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Interprofessional Care	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13561820.2019.1598951	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Abe H, Yada H, Yamamoto T, Sohma H	4. 巻 48
2. 論文標題 Development of the Undergraduate Version of the Interprofessional Learning Scale	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Allied Health	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡邊秀臣	4. 巻 69
2. 論文標題 医療安全とWHO戦略に基づく多職種連携教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 整形外科	6. 最初と最後の頁 702
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤貴之、岡美智代、篠崎博光、金泉志保美、坂本雅昭、久留利菜菜、中澤理恵、辻村弘美、齊尾征直、時田佳治、李範爽、今井忠則、土屋謙仕、川島智幸	4. 巻 1
2. 論文標題 保健学研究科 国際保健推進室の取り組み -なぜ、保健学は国際化が必要か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学国際センター論集	6. 最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦 真由美、杉村 政樹、相馬 仁	4. 巻 43
2. 論文標題 札幌医科大学の地域基盤型多職種連携教育 (IPE)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村 政樹、杉浦 真由美、相馬 仁	4. 巻 43
2. 論文標題 札幌医科大学の医学部臨床実習前のIPE短期地域滞在型地域医療実習	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 114-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井弘樹	4. 巻 10
2. 論文標題 臨床検査技師養成課程において、真に学びのある連携教育とは？ 群馬大学における専門職連携教育の取り組み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床検査学教育	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時田佳治	4. 巻 63
2. 論文標題 医療の質を改善するためのWHOの活動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 目で見えるWHO	6. 最初と最後の頁 28-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe H, Yada H, Yamamoto T, Sohma H.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Development of the Undergraduate Version of the Interprofessional Learning Scale (UIPLS)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Allied Health	6. 最初と最後の頁 00-00
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makino T, Lee B, Matsui H, Tokita Y, Shinozaki H, Kanaizumi S, Abe Y, Saitoh T, Tozato F, Igarashi A, Sato M, Ohtake S, Tabuchi N, Inagaki M, Kama A, Watanabe H.	4. 巻 32
2. 論文標題 Health science students' attitudes towards healthcare teams: A comparison between two universities	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Interprofessional Care	6. 最初と最後の頁 196-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13561820.2017.1372396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Bumsuk Lee, Hiromitsu Shinozaki, Ketsomsouk Boupvannh, Yoshiharu Tokita, Takatoshi Makino, Hiroki Matsui, Takayuki Saitoh, Fusae Tozato, Hideomi Watanabe	4. 巻 30
2. 論文標題 A plan for embedding an interprofessional education initiative into an existing programme in a Southeast Asian university	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Interprofessional Care	6. 最初と最後の頁 401-403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3109/13561820.2016.1149156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nana Kururi, Fusae Tozato, Bumsuk Lee, Hiroko Kazama, Shiori Katsuyama, Maiko Takahashi, Yumiko Abe, Hiroki Matsui, Yoshiharu Tokita, Takyuki Saitoh, Shiomi Kanaizumi, Takatoshi Makino, Hiromitsu Shinozaki, Takehiko Yamji, Hideomi Watanabe	4. 巻 30
2. 論文標題 Professional Identity Acquisition Process Model in Interprofessional Education Using Structural Equation Modelling: 10-Year Initiative Survey	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Interprofessional Care	6. 最初と最後の頁 175-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3109/13561820.2015.1092117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Watanabe H
2. 発表標題 Research on Interprofessional Education and high-fidelity simulation teaching in medical and nursing students
3. 学会等名 Workshop of "Nursing Scenario Simulation Teaching and Clinical Thinking" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ogawa Shota, Ono Itsushi, Yamaya Noriki, Imai Risa, Shimizu Mana, Takeuchi Kaon, Tokita Yoshiharu, Kawashima Tomoyuki, Watanabe Hideomi
2. 発表標題 Report on students' voluntary IPE activities: A lesson we learned from a new member
3. 学会等名 All Together Better Health IX (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Moran M, Py M, Martin P, Lee B
2. 発表標題 Enacting interprofessional Leadership
3. 学会等名 All Together Better Health IX (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Lee B, Watanabe H
2. 発表標題 Interprofessional Education and working: Global and regional initiatives, in The workshop for IPE and IPW in community care
3. 学会等名 Korean Association for Occupational Therapy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sohma H
2. 発表標題 Community health care training for undergraduate medical students in the northern vast area of Japan
3. 学会等名 2019 World Federation for Medical Education (WFME) World Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sugiura M, Ishimoto K, Sohma H
2. 発表標題 Development of the Educational Mentor Program for Nurses from the research on the issues on the job training
3. 学会等名 2019 World Federation for Medical Education (WFME) World Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Watanabe H
2. 発表標題 Explanation of the symposium concept
3. 学会等名 The International symposium on Patient Safety: Building Leadership capacity for Patient Safety; Learning form Global Perspective (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺秀臣
2. 発表標題 医療安全文化醸成のための多職種連携教育
3. 学会等名 第5回 日本医療安全学会学術総会-地域に根ざした医療安全文化の醸成（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺秀臣
2. 発表標題 医療安全文化醸成に向けた多職種連携教育
3. 学会等名 群馬県健康づくり財団 講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋雄太、八島秀明、永野大輔、岸美紀子、鎌田英男、牧野孝俊、篠崎博光、阿部正樹、荒木拓也、山本康次郎、渡邊秀臣
2. 発表標題 薬学実務実習における医学部多専攻学生とのグループワーク導入の試み
3. 学会等名 第一回群馬県薬学大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiharu Tokita
2. 発表標題 Plenary session 3 - IPEC development From Global Consensus to practice. IPEC and Quality Improvement of Healthcare in the UHC era
3. 学会等名 1st Asia-Pacific Interprofessional Education and Collaboration Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井 弘樹
2. 発表標題 シンポジウム 「臨床検査技師養成課程において、真に学びのある連携教育とは？」群馬大学における専門職連携教育の取り組み
3. 学会等名 第12回日本臨床検査学教育学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤美香、牧野孝俊、磯部直幸、篠崎博光)、金泉志保美)、山路雄彦、松井弘樹、時田佳治、吉田朋美、岸美紀子、蒲章則、相馬仁、山本武志、杉村政樹、齋藤洋子、渡邊秀臣
2. 発表標題 多職種連携に対する看護学生態度変化の大学間比較
3. 学会等名 第10回日本保健医療福祉連携教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideomi Watanabe
2. 発表標題 Global momentum of IPE Plenary Session 3: IPEC development: From Global consensus to practice
3. 学会等名 1st Asia Pacific Interprofessional Education and Collaboration Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideomi Watanabe
2. 発表標題 IPE implemented Gunma University. Plenary Session 4: Developing IPE in Undergraduate Curriculum
3. 学会等名 1st Asia Pacific Interprofessional Education and Collaboration Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sohma H
2. 発表標題 Community health care training beyond the University hospital in order to establish greater mutual understanding between medical students and the community
3. 学会等名 第49回医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉村政樹、山本武志、鶴飼渉、相馬仁
2. 発表標題 道北離島地域における多職種連携の現状と取組
3. 学会等名 第49回医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 牧野孝俊
2. 発表標題 群馬大学の多職種連携教育におけるエビデンス
3. 学会等名 第21回日本看護研究学会東海地方学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideomi Watanabe
2. 発表標題 Interprofessional education in Japan Gunma University implementation
3. 学会等名 Centennial Celebration of PUMC & International Medical Education Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊秀臣
2. 発表標題 WHO Collaborating Centre for Research and Training on Interprofessional Education JPN-89: Gunma University
3. 学会等名 WHO Collaborating Centre連携会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideomi Watanabe
2. 発表標題 Lessons Learned of Becoming WHOCC on IPE
3. 学会等名 4th Annual National Health Professional Education Reform Forum（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>WHO西太平洋地域の協力センター活動のハイライト http://www.wpro.who.int/whocc_forum/highlights/news/20161125-helping-community-based-educ-programme-lao/en/ 群馬大学多職種連携教育研究研修センター http://whocc.health.gunma-u.ac.jp/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松井 弘樹 (Matsui Hiroki) (20431710)	群馬大学・大学院保健学研究科・講師 (12301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	篠崎 博光 (Shinozaki Hiromitsu) (30334139)	群馬大学・大学院保健学研究科・教授 (12301)	
研究分担者	佐藤 江奈 (Sato Ena) (30811179)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	
研究分担者	牧野 孝俊 (Makino Takatoshi) (50389756)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	李 範爽 (Lee Bumsuk) (50455953)	群馬大学・大学院保健学研究科・教授 (12301)	
研究分担者	金泉 志保美 (Kanaizumi Shiomi) (60398526)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	相馬 仁 (Sohma Hitoshi) (70226702)	札幌医科大学・医療人育成センター・教授 (20101)	
研究分担者	安部 由美子 (Abe Yumiko) (70261857)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	時田 佳治 (Tokita Yoshiharu) (70588003)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川島 智幸 (Kawashima Tomoyuki) (70759050)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	齋藤 貴之 (Saitoh Takayuki) (80375542)	群馬大学・大学院保健学研究科・教授 (12301)	
研究分担者	山路 雄彦 (Yamaji Takehiko) (90239997)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	吉田 朋美 (Yoshida Tomomi) (00312893)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	外里 富佐江 (Tomato Fusae) (20316433)	群馬大学・大学院保健学研究科・教授 (12301)	
研究分担者	浅川 康吉 (Asakawa Yasuyoshi) (60231875)	首都大学東京・人間健康科学研究科・教授 (22604)	(0) 群馬大学 (0) 首都大学東京 変更：平成27年4月1日